



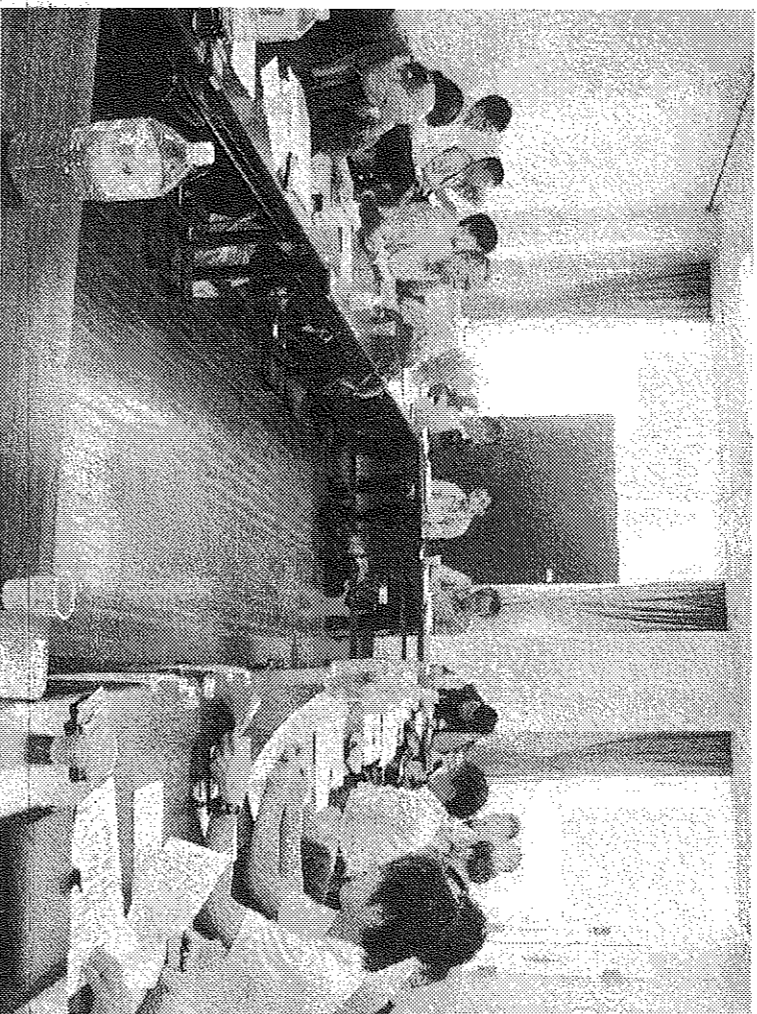
2013.6.1.

Tel 080-3451-8400

E-mail hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

総会の報告

去る5月18日、八王子労政会館にて2013年度総会が行われ、前年度事業報告・決算及び今年度事業計画・予算等、提出議案は全て承認され、総会は無事に終了しました。当日出席して頂きました皆さま、お忙しいなか誠にありがとうございました。



今年度の総会の大きな焦点としては、2011年度の未納会費として2012年度に行った処理状況の確認、それに関係する新しい年会費の基準の決定、さらには今後の八障連としての活動の方向性、これらが主な課題として取り上げられました。

未納会費については会員各団体のご協力により、ほぼ全額が回収できた事により、無事に会計処理を終える事が出来ました。運営委員にとって前年度の会費請求と会費処理に費やす労力は毎年の事ながら多大で、ほぼ全額が回収できた事から今年度の予算を考える基準とすることが出来ました。

新規程による年会費の金額については、1年以上の時間を費やして、加盟各団体に不平等性のない算出方法を模索してきたことを、充分ご理解を頂けるよう細かく説明を行いました。基本方針として日中活動系事業所の負担を下げる目的を掲げ、加入69団体のうち39団体の会費を下げる事に成功した反面、会費収入も25%減となってしまったことや、その問題の解決策として必要経費の削減を図りながら、加盟各団体への還元を努力してきた経過を詳しくお伝えしました。

今後の八障連の活動方針に関しては、今年度の対市予算交渉や市議との懇談会を通じて、八障連が運動体としてどのような取り組みべきか意見交換を行いました。そこで様々な団体の集合体である八障連の特色を生かし、昨年度の市議との懇談会で取り上げた「防災」を今年度も継続し、市の防災課などの様々な立場の人を交え、より深く掘り下げながら、11月に予定している市議との懇談会でも引き続き「防災」を基本テーマとしていくことになりました。



全体の印象としては、この数年間、全体の共通したテーマとして自立支援法を取り上げてきましたが、現在のところ、旧家賃補助(日中活動系サポート&安定化事業)の補助率の維持を維持すること以外に、重要な課題は少なくなってきたており、各事業体が共通したテーマを

共有することは難しくなってきました。一方で、これまでの当事者主体の運動団体としての特徴を生かし、当事者主体から見てくる問題をこちらから提示できる団体として、今まで以上に特化してゆく必要性が見えてきたと思わせる総会であつたと感じました。

<文責：川出>

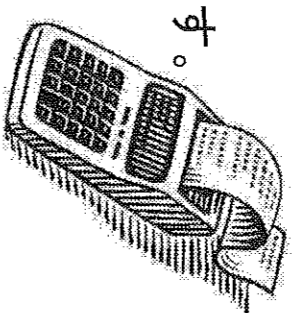
《お知らせ》



今年度会費の金額が変更となつた団体・事業所が多くあります。

振り込み用紙は現在会計で準備を進めています。近々にお届けする予定です。

もう少しお待ち頂けるよう、お願い致します。



今後のスケジュール

6月 20日	(木)例会	18時～20時	クリエイトホール	4階	第2創作室
7月 18日	(木)例会	18時～20時	クリエイトホール	10階	第1学習
8月 22日	(木)例会	18時～20時	クリエイトホール		

連載コラム

『日々のなかから、、、』

vol.20

事務局長



三月に入つてすぐ、ホラセンから連絡がありまして…八王子市立の、恩方第二小学校にお呼ばれました。なんと言いますか…とっても緑豊かな立地に恵まれた学校で、同じ市内なのに空気がとっても澄んでいて…呼吸のたびに鼻腔を通る空気の美味しいこと言ったら、ちよつとしたハイキングコース並みだったかも知れません。今回のネットは、なんと言っても移動のハンデに尽きます。学校の最寄り駅である高尾駅には何度か降りた事があるのですが、それなりにバリアフリーな整備がされた南口とは自場が異なり、学校に向かうバスの停留所がある北口は全国的にご存じの通り、100年以上も前の駅舎がほぼそのまま使われています。車いすに対応する設備と言っても専用エスカレーター程度。部分的には、大勢の駅員さんが人力で対応する場面もあり、わざわざありがたいと思つた反面、久しぶりにもとても恐い思いもしました。もちろんがんばつてくださった駅員さんには、きちんと頭を下げて礼を述べました。近年改修予定とのことなので、駅員さんの負担も軽くなり、車いすの利用者にとつても安心快適な駅施設の整備が待ち遠しいです。第一の難関である高尾駅をクリアした後は第二の難関、バスへの乗車が待っていました。1時間に一本しかバスが出ず、しかも学校に着くまでにほぼ40分。寒空の下えんえんとバス停で待たされた後に、曲がりくねつた山道を登るうちに車内で車酔いになりかけたり、ここでもけっこうしんどい体験をしました第三の難関はズバリ、校舎でした。学校の敷地内にも至る所デコボコやぬかるみ、段差がたたくさんあり、そのたびに教職員のみならずまに助けいただきました。設備が整っていることは大切かもしれませんが、行き当たりばつたりの難所に、あらん限りの創意と工夫で対応し、私を迎え入れてくださる心意気に、またも頭が下がりました。駅にしろ学校にしろ、便利さを追求し、使いやすい施設が整うことは大切です。しかし、なにもないゼロのところから知恵を絞つてくださる周りの人の真心に感謝する気持ちも忘れたくないなと思います。難関を乗り越えて、始まる前からヘトヘトだった私に、喝を入れてくれたのはやはり子どもたちでした。今回の相手は、四年生。人数わずか14人。数少ないから手早く終わるかと思えばさにあらず。どの子も明るく活発で、質問もたくさん出してきてやり甲斐がありました。毎回思うのですが、一人一人の疑問に答えていくのはなかなか難しいのです。しかし私がキツチリ応えて返したときには、とても嬉しそうな顔をしてくれるのがなにより楽しいです。四年生の中に一人、一目で『あ、コッチ(障害者)の業界の子だ』とわかるお子さんが一人居まして、おそらく軽度の発達障害と知的障害のダブルの子だと思うのですが、その子と交わしたやりとりがなかなか楽しかったです。『ねー。その電動車いすの電池のナカミはどんなの?』「電池で動いていますよってこまではよく話すけど、電池のナカミのことまで聞いてきたのはキミが初めてだよ。きみはおもしろいねえ!』とひとまず褒めておきながら、どう返そうか考えました。

次回に続きます

